

## ☆1966 年国際ガラス会議☆

ICG (International Commission on Glass) は 1933 年にできた国際的なガラス関係者の集まりで、戦後は毎年年会、3 年に 1 度大会を行なっており、日本からも毎年多数参加している。今年はそれが日本で開かれることになったが、ICG の会議がヨーロッパ以外の地で開かれることはこれが 2 度目である。

会議はさる 9 月 13 日から 5 日間にわたり、東京上野の文化会館と京都宝ヶ池の国際会館で開かれた。参加者は約 500 名で、そのうち外国人は約 80 名、その他に約 20 名の同伴夫人があった。参加国はヨーロッパ、アメリカの他カナダ、オーストラリア、東南アジアなど 19 カ国で、ソ連、チェコ、東ドイツなどの共産国も加わった。またイエナ（西独）の社長ショット夫妻をはじめ世界の主要ガラス会社からは大体誰かが参加していた。なお日本の主催団体は窯業協会で、当生研からは今岡稔、武藤義一の両教授が参加し、会議の準備、運営の中心になった。

テーマは「ガラスの欠点 (Defects in Glass)」で、ガラスの製造過程にできる品質上の欠点の原因の追求、品質管理の方法を中心に、ガラスの使用過程に起きる欠陥、さらにはガラスの構造中にできた欠陥の問題などを含み、3 件の特別講演（うち日本 1 件）と 33 件（うち日本 10 件）の論文発表があった。同時



通訳を使い日英両国語が使われた関係もあり、討論は活発で時間不足がみであった（講演 20 分討論 10 分）。なお会議と平行してサンケイ会館でガラス展「Glass 1966」を開き、日本のガラスの工業、工芸製品を展示したほか、新しいガラスの展示も行ったが、これらは参加外国人に日本の現状を理解させる上には有効であったようである。

表紙	全自動高精度圧延機：当所鈴木教授の最適圧延条件理論を応用した高精度圧延機、多量の製品を一定の高精度で圧延できる。 (本文 1~8 ページ参照)	
研究解説		
全自動高精度圧延機	鈴木 弘	1
糊料のレオロジー	黒岩 城 雄	9
海外事情		
IFAC ロンドン会議に出席して	大島 康次郎	15
研究速報		
風による水槽波高の変化	田 宮 真	23
タンデム圧延機におけるパススケジュールの新しい計算法 (第 1 報)	鈴木 弘 鎌 田 正	24
Cu-Fe 合金の時効について	川 精 一 西長 雄 小 林 繁 美	26
ケイ皮酸の増感異性	菊 池 真 一 中 村 賢 市 郎 前 田 則 義	29
地盤注入用各種グラウトの特性比較	三 木 五 三 郎	31
生研ニュース		表 3